

友吉郎高吉初我打伊友

附救至危急

今川小条於富士野和睦

附藤吉發志



繪本豊臣勲功記初編卷之二

江戸 八功舎 徳水刪補

日吉丸仕松下家号藤吉属 觀熟武藝

萬事心と用ゆる。眺へ。飛花落葉も技藝とや。然へ中村日吉丸へ  
順光房不従て。東國へ起きし。五郎化をり安途せし。母へ却  
て往涯と案ト續けく東小西小。発旅りし。當日より。只還るべき  
日と算へ。待候ぬる。愚小信つれど。その親とて見と思ふ。食推徳  
て斯こそあれ。然とも養父筑阿弥へ。日吉が倅と口外へ出て更小  
善悪調ね。母の於仲へ底意と知らむ。刺王の倅も思ひけん筑  
阿弥ふら對ひ。喃大良人少の日吉が倅。斯まを。巧き奉止し。く  
持て刺しぬる。更の。有小。異見と為て。賜をらぬ。辞座不感すれ。